

No.122
2015
Autumn

Hachinohe
Institute
of
Technology
Press
SOUKYU

蒼穹

学校法人八戸工業大学 広報

H. I. T. Communication



CONTENTS

八戸工業大学

- p2-3 工大祭・国際防災フォーラム・ETロボコン・「八戸ニューポート」リニューアルプロジェクト・JAMSTECと連携協定締結・海洋学術講座
p4-5 公開デザインセミナー・野辺地町小学校体験学習会・木匠塾・学生チャレンジプロジェクト・南部町小学校景観学習教室・中国語研修・県外避難者支援交流会・女子会・硬式テニス部・アーチェリー部・動力研究部・ワールド・ソーラーカー・ラリー
p6-7 農業実験実習講習会・青少年のための科学の祭典・教員受賞・同窓生の集う会・教職員研修会・試験資格等合格者・入試日程・行事予定
p8-9 **カラーページ**
みんなだいすき!! さくらようちえん

八戸工業大学第一高等学校

- p10-11 体育祭・体験入学・部活動体験／見学会・全国高総文祭・全国高総体・OBインカレ優勝・学年統一行事・小型人工衛星打ち上げプロジェクト・国際交流事業に派遣・ボランティア活動・関東支部同窓祭

八戸工業大学第二高等学校

- p12-13 創立40周年記念式典・夏のボランティア・全国高総文祭（美術工芸・弁論・囲碁）・中学生美術セミナー・中国語研修

さくら幼稚園

- p14-15 なかよしさい・みどりの風・ようちえんってこんなところ・とらんぼりん・園児募集
p16 理事会報告
「女子高校生のための進路選択」開催案内

Mobile & iPhone & Android
モバイルサイトへアクセス▶▶▶



2015 工大祭 10月10日(sat) 11日(sun) テーマ「Feeeeel!!」

～ 感じるがままに～

10月10日・11日、第43回八戸工業大学学園祭「工大祭」が開催された。テーマの「Feeeeel!!」には、学園祭の2日間だけはあれこれ考えることをやめにして、素直な心で楽しんで欲しいという意味が込められた。

今年は、両日ともお天気に恵まれ、グラウンド上空に初の「津軽風」が舞った。運動部の模擬店が並ぶメインストリートは、学生達の呼び込みの声や笑い声があふれ、学園祭を盛り上げようと参加した女子職員の八戸名物せんべい汁の模擬店も好評だった。訪れた人々は、各学科の研究室や部活動を紹介するコーナーを見て回り、特設ステージでのゲームやパフォーマンスなどのイベントを楽しんでいた。また、学園祭に合わせて「秋のオープンキャンパス」が開催され、参加した高校生と保護者らが賑やかなキャンパスで大学の雰囲気を味わっていた。



防災技術社会システム研究センター

「第4回市民と一緒に考える国際防災フォーラム」開催

8月30日、八戸市公民館ホールを会場に本学防災技術社会システム研究センターが主催する「市民と一緒に考える国際防災フォーラム」が開催され、4回目となる今回は災害医療と救急医療をテーマに行われた。

はじめにセンター長である藤田成隆学長から開会の挨拶が述べられ、引き続き八戸市立市民病院救急救命センター所長今明秀医師による「ドラマを超える八戸救命」と題する基調講演が行われた。今医師は、八戸地域のAED普及率やドクターヘリ・ドクターカーの出動状況、また震災発生時の市民病院の対応について映像を交えながら講演。続いて特別講師として招いた国際連合人道問題調整事務所のメンバーで救急看護師のオディダ・ベニン・ゴレンさん（イスラエル）から、世界各地の被災地で行ってきた支援活動が紹介され、国境を越えた被災者支援の必要性について提言をいただいた。同時通訳による講演だったが、グローバルな視点での災害時

医療について情報共有が図られた。講演の合間に行われたポスターセッションでは、本学の教員、大学院学生、学部生が研究についての展示を行い、参加者がパ



ネルを囲んで様々な情報交換が行われた。その後、東京電機大学の江川香奈助教が「災害時の医療救護所の設営手法」、本学の浅川拓克助教が「移動型緊急手術室の開発」について講演。最後に本学の関秀廣学長補佐が地域医療の充実と重要性について述べ、フォーラムが締めくくられた。会場に集った高校生、大学生、一般の市民らは最後まで熱心に講演に耳を傾け、災害発生時の救急医療への理解を深めていた。

3度目の全国大会へ「ヒット＆ラン」 E T ロボコン東北地区大会で総合優勝

9月12日、「E T ロボコン2015」の東北地区大会が、岩手県民情報交流センター「アイーナ」(盛岡市)で開催され、本学から出場したチーム「ヒット＆ラン」が見事総合優勝に輝き、3度目の全国大会への切符を手にした。

今大会には東北6県の企業や大学から24チームが出場し、既定の自律型ロボットで指定されたコースを走行するシステムを開発するデベロッパー部門とシステムを自由に企画開発するアーキテクト部門に分かれ、ソフトウェア開発の技術を競いあった。

今回総合優勝した本学チームは、システム情報工学科の山口広行准教授の研究室の学生らのチームで、出場したデベロッパー部門(アドバンストクラス)の走行競技で第1位と

なり、ソフトウェアの設計審査を合わせた総合成績により総合優勝に輝いたもので、2年ぶりに全国大会への出場権を獲得した。

本学チームは、2回行われた走行競技でリタイアするチームが続出する中で、2回とも完走し会場を大いに沸かせた。学生達は、11月に開催される全国大会に向け、「さらに改善を重ね全国大会でも優勝を目指します」と意気込んでいる。



テーマは『ひろがる港』 「八戸ニューポート」リニューアルプロジェクト

建築デザイン研究会「ADL」の4年生のメンバー5人で取り組んできた「八戸ニューポート」のリニューアルプロジェクトが終了し、8月29日に行われた関係者へのお披露目会で小林眞八戸市長から感謝状をいただきました。

「八戸ニューポート」は、八戸市が市民の活動拠点の場として市の中心街十三日町の空き店舗を改装し、昨年11月にスタートしたイベントスペースです。私達ADLは、このスペースをさらに使いやすくするためのリニューアルを市から依頼されて取り組んできました。4月に委託運営会社「アート&コミュニティ」の方々と交えたミーティングを開始し、八戸市の中心街に足りないものは何かを考えながら2チームに分かれてプランをまとめ、6月末にプレゼンを行いました。そこでの審査員の方々の意見を取り入れてさらに修正を重ね、夏休みを利用して机や椅子を製作、設置などの施工を行い、無事完成に至りました。テーマは、『ひろがる港』。新たな知

識や人と出会って発想が広がっていく“港”のような場所になればという思いを込めました。

今回のような責任の伴う設計から施工までのプロセスを学生のうちに経験できるという機会はめったにないことなので、非常に多くのことを学びました。改装した「八戸ニューポート」は、今年いっぱい期間限定で無料開放されます。是非一度足を運び、新たな“港”を活用して欲しいです。



建築デザイン研究会「ADL」成田 潤
(土木建築工学科4年/弘前工高)

JAMSTECと連携協定締結

9月24日、本学において国立研究開発法人海洋研究開発機構(JAMSTEC)との連携・協力に関する協定締結式が行われ、JAMSTECから堀田平理事をはじめ3名が出席した。

式では、協定締結に至るまでの経緯が説明されたのち、堀田理事と藤田成隆学長が協定書に署名し、それぞれから今後の活動へ期待を込めた挨拶が述べられた。式では来賓として出席いただいた小林眞八戸市長より、祝辞を頂戴した。

今回締結した内容は、共同研究はじめ人材育成・人材交流、教育研究の協力、講演会・学術セミナーの開催、施設・設備の相互利用など。八戸沖の石炭層には肥沃な海底生態系が発達していることが、JAMSTECの地球深部探査船「ちきゅう」の海洋掘削により明らかになっており、海洋資源や海洋環境保全に係る研究開発を両機関が連携して推進することで、本学においても海洋科学技術に関わる人材の育成を推進していく。なお、本学では、国立研究開発法人との協定締結は初となる。



海洋学術講座開講

本学と国立研究開発法人海洋研究開発機構(JAMSTEC)が締結した連携協定事項の一環で実施する海洋学術講座が、9月24日にスタートした。

この海洋学術講座は、海洋工学の分野をテーマとする8回シリーズの講座で、JAMSTECの研究者を講師に迎えて開講されるものである。第1回目の講座は、「海洋工学の現在と未来」と題し、同機構開発担当理事の堀田平氏を講師に、本学の学生・教職員を対象に行われた。堀田氏は、JAMSTECの活動を中心に海洋に関わる研究分野と必要な技術、それを支える技術者の状況などについて詳しく解説され、裾野の広い分野でもあり人材育成が不可欠であることを強調。最後に、「世界の海にはビジネスチャンスがある。知識・経験・言葉・体力、そしてチャレンジ精神を養い世界に挑戦して欲しい。」と学生達にエールを送った。今後、海底土木工学、海洋環境情報の水産業への活用などをテーマとする講座が、順次開講されることになっている。



公開デザインセミナー 風呂敷のデザインを発表

8月2日、感性デザイン学科の「ビジュアルデザイン演習Ⅰ」の授業の一環で、2年生26名が青森市のA-factoryで行われた公開デザインセミナー（青森県立美術館主催）に参加し、授業で制作した八幡馬（八戸地方の郷土玩具）をモチーフにした風呂敷のデザイン案を発表してきました。このセミナーには、ヘルシンキのデザインユニット Company が参加しており、彼らが作品の講評をして下さるまたとない機会でした。



風呂敷は、結び方一つで様々なシーンに活用できる伝統アイテムです。私は、その風呂敷と八幡馬のデザインを融合することで、多くの人に改めて八幡馬の魅力に気づいてほしいと思い、八幡馬の形や柄を抽象化した模様をデザインしました。Companyの2人から、「文様の完成度が高く、商品としての魅力がある。すぐにでもお店に置くことのできるデザイン。」という評価をいただきました。国際的なデザイナーが自分のデザインを評価するという経験は、デザインに対する見方や考え方、力不足の部分を気づかせてくれる貴重な機会になりました。この経験を今後の学生生活や制作活動に生かしていきたいと思っています。

笹渡 菜那

（感性デザイン学科2年／八戸東高）

野辺地町の小学校で 体験学習会を実施

9月1日、電気電子システム学科の学生達が野辺地町の小学校に出向き、野辺地町エネルギー・環境教育実践事業の一環による体験学習会を開催した。本学によるエネルギー・環境教育への支援活動は、10年以上も続けられている。今回の体験学習会の対象者は、野辺地町の全小学5年生。野辺地小学校と若葉小学校（馬門小学校の児童も参加）の2校で実施した。体験学習のテーマは、液体窒素、水質検査、省エネルギー、電気自動車、風力発電の5つ。終了後、児童達から、どのテーマも楽しかったという声が寄せられた。演説を担当した学生達は、「実験をテレビで見たという児童もいたが、実際に体験するととても楽しそうだった」「身近な水の大切さを伝えられてよかった」「教えるという貴重な体験ができた」「分かりやすい説明を心掛けたが専門用語が出てしまった」などと話し、児童達だけでなく学生達にとっても有意義な一日となったようだ。



角館「木匠塾」に参加



8月22日～28日、八戸工業大学、秋田県立大学、日本大学工学部の3大学で行っている角館「木匠塾」サマースクールに参加しました。この塾は、大学生に木と建築について学ばせることを目的に行われているもので、今年はこれまでに制作した作品の修復と今年の課題「人が集まる場所」に取り組み、新たに六角形をモチーフにした遊具兼休憩所を作りました。与えられた課題は3大学で協力しあい、期間内に無事仕上げることができました。また、グラウンドゴルフが催され地域の人々と参加した学生達との交流も図られ、充実した1週間でした。3年計画で整備してきた交流広場が、より活気ある場所にできあがったと思います。来年からは、秋田県、仙北市、木匠塾が合同で、数年かけて「ふれあいの森事業」を行っていくことになっており、本学からの参加者をもっと増やし、木匠塾を盛り上げて行きたいです。

建築デザイン研究会「ADL」 加藤 咲紀
（土木建築工学科3年／黒石高）

学生チャレンジプロジェクト事業採択

7月24日、メディアセンターにおいて平成27年度学生チャレンジプロジェクト事業に採択された下記8件の代表らに、藤田成隆学長から助成決定通知書が手渡された。

この事業は、本学の学生のグループが自由な発想で身近な課題に取り組み、その成果を社会に還元することを目的に、学生らの活動に最大40万円を助成するものである。学生達はすぐに活動をはじめ、来年度早々に行われる成果発表会までに成果を取りまとめることになっている。

平成27年度採択事業名

1. 岩手県遠野市「山口の水車小屋修復」プロジェクト
2. インタラクティブアート
3. 種差海岸の今を八戸工大からICTで発信!!
4. グッとくるジオラマ
5. App Store 公開に向けたiOSアプリケーションの開発
6. HVバギープロジェクト
7. 第一ステップ～個展への想いを胸に～
8. 県産品の機能性と栄養価を活かす食品の開発

南部町の小学校の景観学習教室に参加

7月から10月まで3回にわたって、「故郷「福田」のよい景観をカルタにして残そう」をテーマとする南部町立福田小学校の「景観学習教室」が行われ、建築デザイン研究会「ADL」がサポート役で参加しました。



第1回目の学習教室では、基礎学習として自分達の町をどの程度知っているかを確認し、グループに分かれて背の高さや洋服の色で表現する「人間景観」に取り組みました。2回目は「まち歩き探検」を行い、児童達がデジカメを持って名久井岳や馬淵川、町の看板やトンボ等、カルタの絵札になりそうな景観を撮影して回りました。3回目は、撮影した写真を元にカルタの読み札の文章を考えました。児童達が選んだ景観の中には私達が気づかなかったものもあり、彼らの発見力と発想力に驚かされました。今後は来年2月の完成を目指し、実際にカルタの絵札と読み札を制作することになっています。

建築デザイン研究会「ADL」 山口 裕史
（大学院工学研究科建築工学専攻・青森県出身）

中国語研修に参加して

8月19日～9月3日／瀋陽工業大学（中国遼寧省瀋陽市）

私が研修に参加したのは、以前から海外に行きたいと思っていたことと、ニュースではあまり良い印象を受けない中国が実際はどうかを確かめたかったからだ。

20日から中国での生活が始まった。語学講座は翌日の午前から始まり、午後は史跡などを見学した。中国での語学講座は思ったより少し難しかった。特に発音には苦戦した。ただ、中国で勉強した方が覚えやすいことを実感した。

大学前の通りには毎晩夜店が立ち、そこを見て回るのが一番楽しかった。スリに気を付けるようにと言われていたが、財布を拾ってあげている人を見かけた。買い物中に何度か話しかけられたが、何を言っているのかよく分からずまごまごしていると、中国語と英語とジェスチャーで教えてくれた。もっと中国語が話せればと思った。中国は、ニュースなどから受けていた印象よりもずっと良かったし、どこに行っても生きている大きな力のようなものがあるのがわかった。

大友 涼夏（感性デザイン学科1年／秋田・金足農高）写真左端



学生ボランティア

県外避難者支援交流会に参加

7月18日、東日本大震災により県外（岩手県・宮城県・福島県）から青森県内に避難されている方々を対象とした「平成27年度県外避難者支援交流会」（青森県避難者交流実行委員会主催）が催され、感性デザイン学科の学生6名がボランティアとして参加した。

十和田湖畔で開催された今回の交流会は、約60名の被災者の方々とスタッフやボランティア約30名が参加して行われた。学生ボランティアは、本学と弘前大学、青森大学の3大学。本学の学生らは、八戸・十和田・三沢地区から参加した25名（11世帯）の世話役として交流と介助のお手伝いをした。



十和田湖と奥入瀬渓流を見学した後、会場の「奥入瀬森のホテル」で昼食会やワークショップが行われ、学生同士の交流会も催された。参加した学生からは、「足の不自由なお年寄りのお世話をしたが逆に励まされた。」「参加してよかった楽しかったという声を聞き嬉しかった。」と、学生達は学生生活では味わえない充実感を得たようだ。

「女子会スイーツビュッフェ」開催

7月2日、メディアセンターにおいて「女子会スイーツビュッフェ」が開催された。この催しは、本学の女子学生に学科や学年を越えてより活発に交流してもらいたいと文化会会長の我妻しのおさん（感性デザイン学科3年／むつ工高）ら学生3人が企画し、女子職員のサポートで初めて開催されたものである。

今回新入生女子のウェルカムパーティーと銘打って参加を呼び掛けたところ、学生63人と教職員17人が参加した。参加者は、おもいおもいにスイーツを選んでテーブルを囲んで女子トークに花を咲かせ、用意したスイーツと飲み物がすべてなくなったところで終了となった。

終了後のアンケートには、「楽しかった」「先輩の話が聞けてよかった」「またやって欲しい」などの声が寄せられ、我妻さんらは「想定以上の参加があり、学年や学科を越えた交流ができてよかった」と感想を述べた。この企画をきっかけに、女子学生達の新たな取り組みに期待したい。



青森県秋季シングルステニス選手権 男子B級優勝



三浦 健太郎
（硬式テニス部／
土木建築工学科
1年・八戸西高）

主催：青森県テニス協会（新青森県
テニス総合運動公園／9月6日）

第47回東北学生アーチェリー 新人選手権大会優勝



上村 賢一朗
（アーチェリー部
／土木建築工学科
1年・八戸工大一
高）

主催：東北学生アーチェリー連盟（山
形大学／10月3日）

動力研究部のマシン活躍

オープンクラス「大学の部」優勝

2015電気自動車エコラン競技大会
主催：電気自動車エコラン競技大会
実行委員会（宮城県村田町・スポー
ツランド SUGO／8月22日・23日）

「大学一般の部」第一位

第26回手作り自動車省燃費競技大会
主催：自動車技術会東北支部学生自
動車研究会（宮城県仙台市・宮城県
運転免許センター／9月5日）

2015ワールド・ソーラーカー・ラリー

土木建築工学科の佐々木幹夫教授が率いるソーラーカーチームが、8月10日～12日、秋田県南秋田郡大湯村で開催された「2015ワールド・ソーラーカー・ラリー」に出場した。

このレースは、クラス毎に1周25kmの専用コースを3日間約25時間かけて走行しその周回数を競う耐久レース。今回新メンバーで猛暑のコースに挑んだが、車両トラブルによりソーラーカー部門アドベンチャークラス第5位という成績に終わった。レース後佐々木教授は「実はドライバーの張り切りすぎが敗因では」と笑顔で話していた。過去にこのレースで準優勝したことのある本学チームの更なる挑戦に期待したい。



農業実験実習講習会開催

8月3日から7日までの5日間、本学を会場に平成27年度第59回農業実験実習講習会（東北地区）が開催された。

この講習会は、公益財団法人全国学校農場協会が高等学校農業教育教職員の科学的農業技術の向上を目的に全国8地区で実施しているもので、本学で開催するのは初めて。今回、北海道から1名、青森県から11名、岩手県から1名の計13名が参加した。

第1日目は、開講式と講習に関連する本学の機器等の見学が行われ、翌日から本格的に食中毒菌の検出、遺伝子組換え食品の判別と油脂酸化、残留農薬および食品添加物の分析など、食品の安全評価法にかかる実験や実習が行われた。連日の猛暑だったが、参加者らは終始和やかな雰囲気の中で課題に取り組み、低圧電気取扱者技能の講義と実技を最後に無事修了した。



青少年のための科学の祭典

8月8日・9日、八戸市児童科学館を主会場に「青少年のための科学の祭典八戸大会」が開催され、多くの子どもたちとその家族が訪れて科学の面白さを味わった。子どもたちに科学実験などを通して科学の楽しさを知ってもらおうと、本学の学生や教職員、OBら有志が参加し好評を博した。今回会場に用意されたワークショップや体験ブースは60余り。その内「スピードガンによるボール速度の計測」「ミニ分光器」「折り紙建築をつくろう」「イルミネーション電子工作」など、今回本学が関わったテーマは10テーマを超えた。子どもたちは次々にブースを巡り、目を輝かせて工作や実験に取り組んでいた。



土木学会東北支部「技術開発賞」受賞



5月28日、ホテルメトロポリタン仙台で行われた平成27年度土木学会東北支部総会の表彰式で、大学院社会基盤工学専攻の虹川高宏さん写真右と同専攻の長谷川明教授に「技術開発賞」が贈られた。この賞は、3月7日に開催された平成26年度東北支部技術研究発表会（於東北学院大学工学部）で、発表した「歌津大橋（宮城県南三陸町）の水理実験と耐力評価」に対して贈られたもので、震災後構造工学研究室の長谷川教授が中心となって続けてきた

橋の津波被害の仕組みを解明する研究が高く評価されたものである。

また、長谷川教授は、8月27日・28日にシンガポールで開催された国際会議「The 40th Conference on World in Concrete & Structure」で論文を発表、「C R Alimchandaini Award 2015」を受賞した。

同「研究奨励賞」受賞

同じく土木学会東北支部総会の表彰式では、機械情報技術学科の藤澤隆介講師が発表した「洗浄機能を有したワイヤ移動式橋梁検査ロボット的设计」が、優れた研究成果を発表したとして36歳未満の若手研究者に贈られる「研究奨励賞」に輝いた。



第15回八戸工業大学同窓生の集う会

10月3日、「第15回八戸工業大学同窓生の集う会」が、八戸パークホテルを会場に開催され、同窓生と教職員を合わせ約100名が参加した。

今回は、会に先立ち表彰式が行われ、本学の同窓会活動に多大な貢献があったとして前会長の白川直人氏らに表彰状が手渡された。式後出席者全員で記念写真に収まり、福士信雄同窓会長の挨拶、学務部長の大黒正敏教授の乾杯の発声で

懇親会がスタートした。同窓生らは、久しぶりに再会した友人や恩師と杯を傾け、和やかな雰囲気のなかで親睦を深めていた。最後に全員で校歌を斉唱、来年の再会を期して散会となった。



平成27年度教職員研修会

8月10日、学校法人八戸工業大学の全教職員を対象に、平成27年度の教職員研修会が大学の教養棟講義室で開催された。

今年度は、「現状の財務状況分析と財務シミュレーション」と題し、本法人の財務監査を担当している有限責任



監査法人トーマツの柏木一男公認会計士を講師に、財務状況を把握するための分析方法を学んだ。柏木氏は、初めに本学園の決算書を元に財務諸表の読み方を解説し、財務状況の推移を図で示しながら説明を加えた。次いで本学園の現状を分析したシミュレーション結果を示し、「この研修が教職員の皆さんにとって、今後どのように行動すべきかを考える機会になって欲しい」と結んだ。

参加した柳谷利通理事長をはじめ約240名の教職員は、終始真剣な表情で聞き入り、学園の現況と課題について認識を深めた。

応用情報技術者試験に合格！！

独立行政法人情報処理推進機構（IPA）が実施する春季情報処理技術者試験の応用情報技術者試験に挑んだシステム情報工学科3年の相馬真樹さん（五所川原工高）が、見事難関を突破し合格を果たした。



相馬さんが合格したこの試験は、ITパスポート試験、基本情報技術者試験よりレベルが高く、合格者の平均年齢が28.7歳、合格率19.0%（青森県10.9%）という難関である。

国家検定「2015年度前期技能検定試験」

機械情報技術学科

◇機械加工普通旋盤作業2級

吉田朋平（4年／八戸工高）

◇機械組立仕上げ作業2級

佐藤僚太（3年／宮城・石巻工高）

◇機械加工普通旋盤作業3級

小林純平（4年／秋田・大館鳳鳴高）

浜端智裕（4年／岩手・種市高）

◇機械加工マシニングセンタ作業3級

川畑光（2年／八戸工高）

◇機械保全機械系保全作業3級（28名）

【3年】荒谷剛史（八戸南高）、五十嵐大將（秋田・大館国際情報学院高）、大志民剛杜（八戸工大一高）、神山貴義（三沢高）、川口修平（八戸南高）、田代永樹（八戸工大一高）、前田裕哉（八戸工大一高）、三浦龍司（弘前工高）、村上真一（弘前中央高）

【2年】秋元良介（秋田・秋田北鷹高）、北城大和（八戸工大一高）、木原康平（八戸西高）、小松哲（八戸工大一高）、坂川優太（岩手・福岡高）、出河晶生（八戸北高）、寺井優大（八戸工大二高）、中村祐太（八戸工大二高）、西谷哲志（弘前工高）、橋本樹（岩手・盛岡南高）、藤原拓也（岩手・紫波総合高）

【1年】市沢謙介（八戸北高）、大池勇輝（八戸工大一高）、奥村幸司（八戸工大一高）、工藤風雅（三沢高）、澤口志信（八戸西高）、清水栄伸（八戸工大一高）、杉山敏紀（青森商高）、高野圭介（宮城・聖和学園薬師堂高）

国語系資格試験合格者

【日本語検定】（3級認定）秋元良介（機械情報技術学科2年／秋田・秋田北鷹高）乙供大河（同／八戸工高）川畑光（同／八戸工高）白幡龍矢（同／秋田・男鹿高）巴大貴（同／秋田・仁賀保高）蛭子泰之（同／八戸工高）藤原拓也（同／岩手・紫波総合高）蓬田祥（同／岩手・一関工高）東千尋（バイオ環境工学科2年／田名部高）大引光（同／青森北高）西村央応（システム情報工学科2年／八戸工高）磯島実希（土木建築工学科2年／八戸工大一高）佐竹伸子（同／山形・荒砥高）今村晃輔（感性デザイン学科2年／青森山田高）高橋メイ（同／八戸聖ウルスラ学院高）（3級準認定）飯田隼平（機械情報技術学科2年／野辺地高）附田駿平（同／十和田工高）寺井優大（同／八戸工大二高）藤島玲奈（バイオ環境工学科2年／岩手・久慈工高）伊藤雄（感性デザイン学科2年／秋田・能代西高）久下涼太（同／八戸工大二高）杉山昂星（同／八戸工大一高）松崎光希（同／八戸工大二高）

【漢字検定】（2級認定）古倉あゆみ（バイオ環境工学科3年／秋田・大館鳳鳴高）（準2級認定）遠藤隼人（機械情報技術学科2年／南部工高）木原康平（同／八戸西高）西谷哲志（同／弘前工高）

平成27年度夏期リビングスタイリスト資格試験

【2級合格者】

越懸澤未来（感性デザイン学科1年／八戸工高）、角掛優羽（同／岩手・盛岡北高）、船場優里（同／三戸高）、佐藤聖矢（同3年／八戸工大一高）

外国語資格副専攻コース（英語）修了

電気電子システム学科4年の田中亨さん（八戸工高）とシステム情報工学科2年の滝沢健太さん（八戸工高）が、英語によるコミュニケーション能力を幅広く評価する世界共通のテスト「TOEIC」で580点以上のスコアを獲得し、二人に学内認定コースの修了証書が授与された。

平成28年度入試日程

工学部・感性デザイン学部

		クール	エントリーカード受付期間	面 談 日
A O 入試	第 3 クール		2015年11月16日(月) ～11月24日(火)	2015年12月5日(土)
	第 4 クール		2016年2月1日(月) ～2月5日(金)	2016年2月12日(金)
	第 5 クール		2016年3月1日(火) ～3月12日(土)	2016年3月17日(木)
	入 試 区 分		願 書 受 付 期 間	試 験 日
推薦入試	指定校制	専門高校・総合学科	2015年11月1日(日) ～11月7日(土)	2015年11月14日(土)
		普 通 高 校	2015年11月1日(日) ～11月7日(土)	2015年11月14日(土)
	公募制推薦入試 (他大学併願可)		2015年12月1日(火) ～12月15日(火)	2015年12月22日(火)
専門・一般入試	専門高校・総合学科		2016年1月4日(月) ～1月25日(月)	2016年2月4日(木)
	一 般	前期 ※	2016年1月4日(月) ～1月25日(月)	2016年2月4日(木)
		後期	2016年3月1日(火) ～3月15日(火) 必着	2016年3月22日(火)
センター利用入試		前期 ※	2016年1月4日(月) ～1月29日(金)	2016年1月16日(土)・17日(日)の大学入試センター試験。本学の個別試験は課さない。
		中期 ※	2016年2月1日(月) ～2月19日(金)	
		後期	2016年3月1日(火) ～3月22日(火) 必着	

※ 学業特待生選考試験を兼ねる。

問合せ先（入試部入試課） TEL 0178-25-8000（直通）

行事予定 11月～1月

11月 7日(土) ミニオープンキャンパス
14日(土) 指定校制推薦入試
彩才祭(文化会主催)～15日(日)

12月 5日(土) A O 入試
22日(火) 公募制推薦入試
24日(木) 冬季休業開始

1月 6日(水) 冬季休業終了
16日(土) 大学入試センター試験 ～17日(日)
26日(火) 後期定期試験 ～29日(金)
編入・転入学試験(一般後期)
29日(金) 開学記念日

みんな だいすき!!

むくらようちえん



グローブジャングル
めがまわる~!



ゆっくり、ゆっくりね。



びよーん。
こんなにのびるよ。



カラフルだんご、
作ってるんだ。



お花紙をちぎって
はっていくんだよ。



おいしそうな野菜が
できたよ♡



ペチュニアをもみもみすると...
こんな色になるよ。



1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100

第57回

体育祭

8月28日、第57回体育祭が開催された。前日は、天候の急変により室内での練習となったが、その練習不足をものともせず、生徒一人一人が堂々とした若さあふれる行進で盛り上げた。どの種目もひとたび競技が始まると、曇り空を吹き飛ばすような熱い戦いが繰り広げられた。勝負は一喜一憂、グラウンドには歓声や笑いが満ちあふれた。今年は、青軍（普通科）が白軍（機械コース）との接戦を制し、5年連続の優勝を勝ち取った。



体験入学



コースの実習室での高校の学習内容のユーモア溢れる説明に驚いたり感心したり。笑顔一杯の高校体験となったようだ。

8月17日～21日、中学生を対象に「体験入学」が行われ、県内外の中学校73校から904名と保護者や引率の先生方が多数参加した。猛暑の中、生徒達は各コース

プ
チ
高
校
生

部活動体験・見学会

10月3日、部活動体験・見学会が開催された。この催しは、本校部活動の日頃の取り組みを見てみたいという中学生や保護者の要望に応じて行っているもので、参加した生徒や保護者との交流を通して本校の教育への理解をより深めてもらおうと毎年実施している。今年は、中学生237名のほか保護者も多数参加し盛大に行われた。中学生達は真剣な顔で説明に耳を傾け、いきいきと活動していた。午後からは、工業科の見学会が行われた。



全国高等学校総合文化祭

翔びたとう 創造の翼できらめく湖から

7月28日～31日、第39回全国高等学校総合文化祭写真部門が、滋賀県の津市市民会館を主会場に開催された。昨年度青森県高校総文祭の写真部門で最優秀賞を受賞した佐々木里葉さん（3年建築コース・江陽中）の作品「温もりに包まれて」が、県代表作品として出品された。

全国高等学校総合体育大会

風になれ今青春が走りだす



8月1日～4日、京都府舞鶴市においてレスリング競技（男女団体戦・個人戦）が行われた。個人戦男子55kg級に出場した永田文治君（3年普通科・五戸中）、女子60kg級に出場した榎本美鈴さん（同・湊中 写真左）、同65kg級に出場した関下由希さん（同・白銀南中）の3人が、ともに第3位に入賞した。

OBの活躍

自転車競技

全日本インカレ日本一

8月27日～30日、長野県松本市で行われた文部科学大臣杯第71回全日本大学



対抗選手権自転車競技大会において、自転車競技部OBの小原佑太さん（階上中出身・現朝日大学2年）が、男子スプリント種目で予選タイム学連新記録（大会新記録）を出し、昨年のタンデム・スプリントに続き2年連続学生日本一に輝いた。また、1kmタイム・トライアルでは第6位に入賞、団体種目のチーム・スプリントは第3位で銅メダルを獲得した。

1 学年

競技大会

10月8日、学年対抗競技大会が開催された。生徒の交流とクラスの結束を強めることを目的に、熱戦が繰り広げられた。応援にも力が入り他のクラスにも大きな声援が送られた。どのクラスも素晴らしい団結力を発揮し、結束力がさらに深まったようだ。



2 学年

職場体験実習

10月6日から8日まで、民間企業や官公庁、自衛隊などで職場体験実習を行った。普段の学校生活とは異なり、実際の職場の方々から直接指導を受けた生徒達は、仕事の厳しさや大変さを肌で感じとったようである。



3 学年

秋のバス遠足

10月8日、十和田湖へのバス遠足が催された。この日は台風がもたらした冷たい風が吹く生憎の天気だったが、生徒達は肩をすばめながらもあちこちで記念の写真を撮り合っていた。計画していた銚子大滝付近の溪流ウォークも強風で断念せざるを得なかったが、高校生活最後の遠足を満喫していた。



小型人工衛星 打ち上げプロジェクト その3

小型人工衛星打ち上げプロジェクト認定校として本校では、現在ブレッドボードモデルと呼ばれる試作機の製作を行っている。PICと呼ばれるマイクロチップ間の通信プログラムを、河村正貴君（3年電子通信コース・白銀南中）と安倍卓也君（同・小中野中）が中心となって進めている。今後は、エンジニアリングモデルと呼ばれる部品を用いて、規格にあったものを製作することになっている。それには小さな容積に多くの部品を組み込むための熱量・重量を考慮する必要があったが、八戸工業大学の協力により部品の重量を計測することができた。小さいものでは0.005グラムしかないものがあり、重量・サイズともに小さな回路を製作するのに困難を極めた。今後もこうした細かく難しい作業が続くと思われるが、次回はさらに進展した報告をしたい。



部品の重量を計測することができた。小さいものでは0.005グラムしかないものがあり、重量・サイズともに小さな回路を製作するのに困難を極めた。今後もこうした細かく難しい作業が続くと思われるが、次回はさらに進展した報告をしたい。

米国との交流事業に派遣

9月30日から10月9日まで、青森県教育委員会が主催する「27年度高校生による青森県とメーン州の交流事業」に私を含め10名の高校生が派遣され、ホームステイしながら現地の中・高



生に日本のお祭りや踊りなどを紹介してきました。言葉や生活スタイルに戸惑いしましたが、ホストファミリーと一緒にいった仲間のおかげで何とか役目を果たすことが出来ました。これからもっといろいろな国の人と触れ合ってみたいと思いました。

林 公平（1年普通科・木ノ下中 写真前列右端）

■八戸三社大祭

毎年恒例となっている運動部生による八戸三社大祭のボランティア活動。参加した生徒の中には、京都でのインターハイから戻ったばかりという者もいた。「八戸の祭りに参加できて嬉しい。これからは支えていかなければ」と、疲れをものともせず笑顔を見せた。



（写真提供 テーラー東北新聞社）

ボランティア活動

■24時間テレビ募金活動 『愛は地球を救う』

8月23日、八戸市の市場「八食センター」で行われた日本テレビ「愛は地球を救う」の募金活動に、本校から5人がボランティアで参加した。1年生からこの活動を続けている3年生は、慣れた様子で募金場所を設置したり、積極的に募金を呼びかけていた。



星雲同窓会 関東支部 同窓祭2015



7月19日、東京・銀座の「白いばら」で、星雲同窓会関東支部同窓祭が行なわれた。150名を超える同窓生が集い、大盛況であった。役員の改選が行なわれ、新支部長に窪田豊氏の就任が決まった。

今回、レスリング全日本選抜選手権で連覇し、9年ぶりの世界選手権代表を確実にした小島豪臣さんも参加し、来賓や同窓生から祝福と激励の言葉が贈られた。また、この3月に卒業した同窓生らも多数参加し、先輩達から大歓迎を受けていた。

開拓の精神で未来の創造へ ～創立40周年記念式典～



10月16日、本校は、第二体育館に来賓200名をお迎えし、生徒・教職員の出席のもと創立40周年記念式典を挙行了した。

式ではまず、本校に貢献された物故者に黙祷を捧げた。続いて阿保民博校長から「県内随一の私立進学校を目指して昭和50年に開校した本校は、現在まで多くの人材を各界各方面に送り出してきた。50周年に向けて、世界に羽ばたき、国や地域のリーダーとなる人材の育成に力を注いでいきたい」との式辞があり、柳谷利通理事長からは、「本校は正己以格物の建学の精神のもと、特色ある教育を実践し、地域に確固たる地位を築くことができました。今までのご支援に感謝します。」とお礼の挨拶が述べられた。さらに創立40周年記念事業実行委員長の熊谷雄一氏から、記念事業における皆様から

のご支援に関して感謝の言葉が述べられた。

その後、大久保和兼第三代校長、大島光子第四代校長、旧教職員、学校医、学校歯科医、学校薬剤師、歴代の父母と教師の会会長に感謝状が贈呈された。続いて、青森県知事（代理・三八地域県民局長）及び八戸市長（代理・八戸市教育委員会教育長）からそれぞれ祝辞をいただき、最後に生徒代表の江波明香さん（カレッジコース3年／八戸東中）が、今後の本校発展に向けて更なる努力を誓う言葉を述べた。

式典後には卒業生の木村聡氏（八戸せんべい汁研究所事務局長）と小島祐希氏（ATVアナウンサー）によるトークショーが行われた。高校時代の思い出なども交えた軽快なトークに、会場は大きな盛り上がりを見せた。

鮫・蕪島ボランティアガイド

8月8日・9日の2日間、1年生から3年生までの希望者23名が、鮫・蕪島のボランティアガイドとして、観光客のガイド役を務めた。

ガイドをするには、ガイドを希望しない観光客にも果敢に話しかける勇気やあきらめない気持ちが必要となる。最初、話しかけることすらできなかった生徒達だったが、慣れてくると積極的にガイドができるようになり、準備してきた自作のパンフレットやタブレットを用いたガイドで観光客を楽しませた。参加した生徒達は、来年も是非参加したいと話していた。



夏のボランティア

陸前高田市 K-O運動

8月9日、生徒37名が陸前高田市を訪ねて「K-O運動」を行った。「K-O運動」とは、仮設住宅が0（ゼロ）になるまで支援を継続するというボランティア活動のこと。

7回目となる今回の訪問では、仮設住宅の住民の方々へ美術コース生が描いた絵画作品180点を届けた。また、生徒手作りのかき氷を差し入れて交流を深め、さらに住民の方々と一緒にラジオ体操の収録に参加した。困難な状況にあっても強い気持ちと笑顔を保ち、やさしい被災地の方々から、明るい気持ちをもらうことができたボランティアであった。



2015
滋賀びわこ
総文

全国高等学校総合文化祭参加

美術工芸部門(7月27日~29日)

美術工芸部門に、美術コース3年の志田真菜実さん(十和田第一中 写真左)と太田佑佳さん(天間館中)が出場した。二人の出場は、平成26年度青森県高総文美術部門で、志田さんが最優秀賞、太田さんが優秀賞を受賞し、全国高総文出品作品に選出されたことによるもの。

開会行事では、『ろくでなし



囲碁部門(7月30日~31日)

囲碁部門に、前川晃輝君(カレッジコース2年/八戸東中)が、青森県選抜チームの副将として団体戦に出場した。全国から各都道府県代表約250名が参加し、6回戦までスイス方式による変則リーグ戦で行われた。残念ながら入賞は

弁論部門(7月28日~30日)

弁論部門に、田茂結羽さん(美術コース2年/下長中)が出場した。田茂さんは、平成26年度青森県高総文弁論部門において優秀賞を受賞し、全国高総文への出場者に選出された。

この大会には全国から69名の弁士が出場し、自分の体験や社会問題についてそれぞれ7分間熱弁をふるった。初日と最終日には、高校生運営スタッフ主催の交流会が行われ、滋賀県に関わるクイズに参加者全員が挑戦するなど、大いに盛り上がった。



ならなかったが、団体戦6回戦を全力で戦い抜き、他校の選手と交流を深めるとともに棋力も大きく向上したと思われる。今後囲碁部は、県高総文、県新人戦に出場する。いずれも東北大会、全国大会につながる大事な大会であり、更なる活躍が期待される。

中学生美術セミナー 青森市で開催

9月12日、青森市で中学生美術セミナーを開催した。セミナーには、中学1年生から3年生まで計29名が参加してアクリル画を学んだ。F3号のキャンパスに、野菜や果物を描いたが、初めは描き方が分からず苦勞していた生徒達も次第にコツをつかみ、午後にはアクリル絵の具を上手に扱えるようになった。最後に講評が行われると、中学生達は皆真剣に耳を傾けていた。



瀋陽の風に吹かれて 中国語研修

8月19日から16日間の日程で、八戸工業大学の姉妹校である瀋陽工業大学(中華人民共和国瀋陽市)で行われた語学研修に、二高から希望者5名が参加した。この研修では、大学で中国語を学ぶ他、歴史的建造物(張氏帥府、北陵・東陵、故宮など)や博物館などを見学し見聞を広めた。当初は、中国語の発音や声調に苦戦している生徒もいたが、終盤には自己紹介や初歩的な日常会話ができるようになり、覚えてたの中国語とジェスチャーで現地の方とも交流を深めることができた。沢山の貴重な体験ができ、実り多き研修であった。



なかよしさい



「綿あめ
楽しみにしてきたんだ！」



「三三三
頑張るー！」



「おうちで
会えなくていいな」



「お面作り
楽しいね。」



～年長組の作品～

「僕も私も、
宇宙飛行士」



10月3日、なかよし祭が開催された。お家の人と一緒に意気揚々とやってきた子どもたち。受付でもらったサービス券を手にとると、綿あめや水ヨーヨー、くじ引きコーナー、作品展示コーナー、お面やシャボン玉など、遊びのコーナーに一目散だった。今年も園内のあちこちで、久しぶりに会った友達と楽しそうに談笑する卒園児たちの姿が見られた。名物の豚汁コーナーは、準備の最中からやってくる人もいて、昼時は予想通りの満員だった。なかよし祭では、「見て、食べて、遊ぶ」子どもたちの元気な姿が見られるのが何より嬉しい。協力して下さった皆さんに、感謝！です。



笑顔いっぱい幼稚園



(ゆり組 鈴大郎くんのお父さん)
淡路 雄大さん

さくら幼稚園には、平成22年に卒園した長男がお世話になり、今は二男が通っています。長男は友達とすぐに打ち解け、なんの心配もなく元気に登園していたので、二男も大丈夫だろうと思っていました。しかし、二男は入園直後、毎朝「お腹が痛い」と何十分もトイレから出てこず、登園しても「帰りたい」の毎日でした。それは夏休み前まで続き、そこまでして通わせなければならぬかと先生に

相談したところ、二男の不安を取り除いてくれたようです。先生が優しく見守ってくれていたおかげで、泣きだしそうだった顔が笑顔であふれるようになりました。年中の時に始めたサッカー教室を一年続けられたというのも自信になったのか、今では毎日楽しく通っています。色々な経験をしながらたくましく育っていく子どもたち。先生方には感謝の気持ちでいっぱいです。

ようちえんってこんなところ

年長 サマーフェスタ



「頑張り・仲良し・元気
3つ合わせてさくら幼稚園良い子の火」

すいかわり大会



「おいしそう～ はやく食べたいな!」

秋の遠足



「みんなでドライブ!出発進行~!!」

園児募集

満3歳児
3歳児
4歳児
5歳児
園費受付(お申し込み)は
11月1日より

- 完全給食
- 通園バスあり
- 預かり保育あり

とらんぽりん

～ある日の保育日誌～

満3歳いちご組 9月11日(金)

心待ちにしていた遠足が、雨で延期になった。さぞやがっかりするだろうと思いきや子どもたちはお弁当のことで頭がいっぱい。いつもは給食なので、手作りのお弁当が嬉しくて仕方がないようだった。「サンドイッチだよ」「ママが作ったんだ」と満面の笑顔で教えてくれた。中には登園するや早速お弁当を取り出そうとしている子もいた。お弁当はもちろん、おやつも完食。バスには乗れなかったが、子どもたちには満足の一日だったようだ。



「色水遊び楽しいよ☆」

年少組 9月2日(水)

久しぶりにお日様が顔を出したので、ボディペインティングをした。水遊びができない日が続いていたので、着替えに時間がかかるだろうと思ったが、裸になって絵の具用のパンツに履き替えるよう伝えたと、わくわくした気持ちから着替えがとても早かった。画用紙と絵の具の準備が整い、ボディペインティングを開始。指先で少しずつ描く子、豪快に手のひらで絵の具を広げる子、画用紙ではなく体に塗りたくる子とおもしろい楽しんでいた。

年中組 9月7日(月)

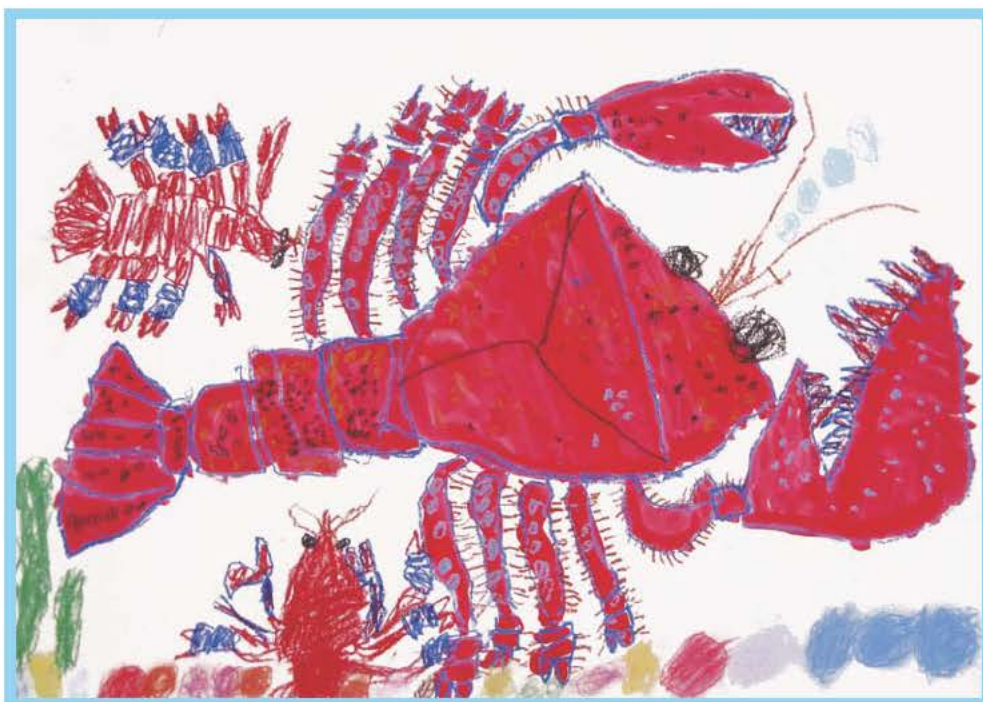
給食時間、テレビで放映されたドラえもん映画が話題になった。「パパね、ドラえもんを見て泣いてたよ」と一人が言うと、周りの子も「僕のお父さんもドラえもんを見て泣いた」と言い出した。「お父さんたちも泣くくらい感動したんだね」と言うと、「だってドラえもんが帰っちゃうから…」と理由を教えた。子どもたちは内容をちゃんと説明できるようになった。ドラえもん映画は、親子の気持ちが通じ合えるいい機会だったようだ。



～年長 ジャガ芋掘り～
「小さいジャガ芋も
かわいいね。」

年長組 8月26日(水)

「じゃが芋掘り」の絵を描いた。描く前にいろいろ質問すると「土の上の方はやわらかかったけれど下の方は固かったよ」「リングみたいなのがあった」「すごく小さいのもあった」と、そのときに感じたことや周りの光景を思い出したようで、大きい芋小さい芋、ごつごつした芋を自分なりに表現していた。子どもたちは絵を描きながら、「肉じゃが食べた」「カレーライスにした」「じゃがバターにした」などと、持ち帰ったじゃが芋をおいしい料理にしてみようと思ったことを報告しあっていた。



理事会

学校法人八戸工業大学は、下記の通り理事会を開催して各案件について審議を行い、それぞれ原案通り承認した。

◇7月17日 理事会

- ・私立幼稚園「子ども・子育て支援新制度への移行調査」に関する件

◇8月10日 理事会

- ・学校法人八戸工業大学「事務組織規程」改正に関する件

◇9月24日 理事会

- ・八戸工業大学「学費納入規程」改正に関する件

学校法人八戸工業大学創立60周年記念イベント

女子高校生のための進路選択支援フォーラム

～ぜひたい自分って何？～



特別講演 大島まりさん
 東京大学大学院情報学環
 生産技術研究所 教授

と き：11月7日(土) 13:30～15:30

と ころ：八戸グランドホテル

対 象：高校生・一般(中学生の方も歓迎)

参加無料

「世界 受けたい授業」の大島先生が、科学的なものの「え方で、進学・「職・」活に頑張る女性を応援します。

表 紙 さくら幼稚園 年長組

裏表紙 さくら幼稚園 年長組 長谷川礼音くんの作品

タイトル「ざりがにのさんば」